

あつぎ郷土博物館NEWS 5月号

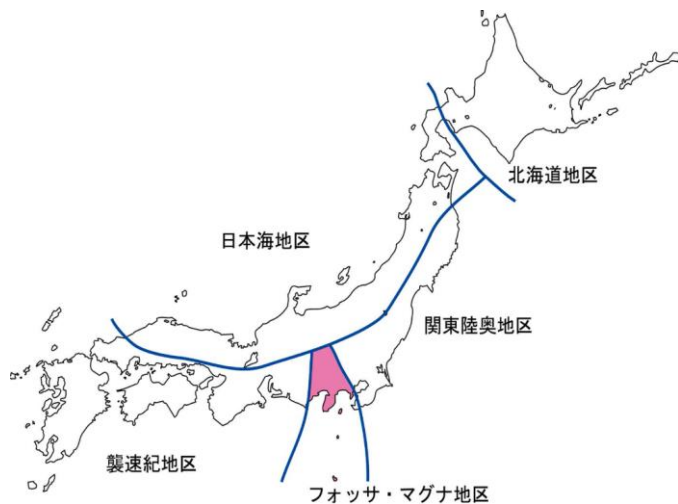
「石」から「木」へ 融合展示がリニューアル 植物と動物のつながりも紹介

今年の4月から基本展示室中央の融合展示コーナーを、「木」をテーマとした展示に替えています。先月は考古の分野についてお伝えしましたが、今回は生物の分野についてご紹介します。

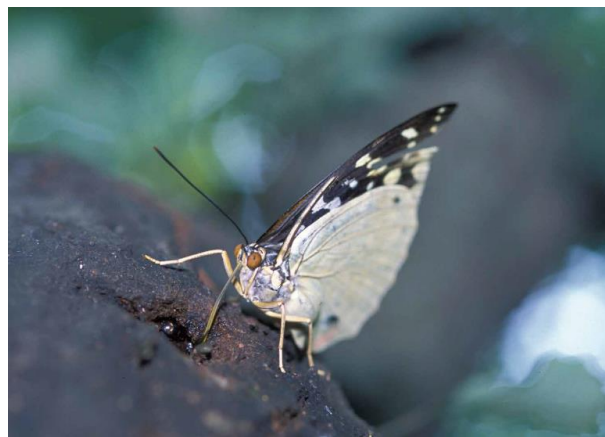
生物のコーナーでは、まず植物分布の特性から見たあつぎを紹介しています。日本国内は5つの植物区に分かれていますが、あつぎが所属するのは最も小さい「フォッサマグナ区」です。富士山の噴火で植物相が影響を受けた地区で、あつぎではフジアザミやマメザクラなどが知られています。

次に植物と動物のつながりについて紹介しています。木は花の蜜を鳥や昆虫の食料として提供する代わりに、花粉をおしべにつける受粉を動物に手伝ってもらうなど、持ちつ持たれつ の関係を築いています。しかし、木を住処にするキツツキ類や樹液を吸うオオムラサキなど 一方的に植物を利用する動物もいるのです。自然は一筋縄ではいかないところが面白いと思います。オオムラサキの標本やマメザクラの押し花標本も展示していますのでぜひご覧ください。

今後も常設の基本展示に加え、興味深い企画展示、皆様が楽しめる講座や体験学習を充実させることで、引き続き誰もが楽しめ、何度も足を運んでいただけるような博物館を目指してまいります。



植物区



オオムラサキ

渡辺華山展を何倍も楽しむための基礎知識②

今年度の9月から11月までの予定で「優しい旅びと・渡辺華山」展—「厚木六勝」と「游相日記」—と題して特別展示を開催いたします。開催前に渡辺華山について知って華山にちょっとでも興味を持ってください。

『游相日記』

江戸時代後期の画家であり蘭学者である、渡辺華山が門人の高木梧庵と共に厚木までを旅し記した書物が、『游相日記』です。

田原藩の藩士である華山は、当時仕えていた三宅友信の生母、お銀様を訪ねる目的で旅に出ます。お銀様は、田原藩主三宅康友の侍女となって、友信を生みましたが、その後、暇をとって相模国高座郡小園村（現在の綾瀬市小園）に住んでいました。

華山は、天保2年（1831）9月20日江戸を発ち、矢倉沢往還（大山街道）を通り、22日お銀様と再会し、その後相模川を渡り、厚木に到着します。そこで「厚木の盛なる都とことならず」と当時の厚木の様子を描写しています。厚木では多くの文化人と交流している様子が伺えます。また、その交流の中から『厚木六勝』が生まれました。24日に厚木を去り帰路についています。

厚木での滞在は大変短い間でしたが、多くの友を得たりと有意義なものであったと感じます。また『游相日記』には、人や物の描写があり、幕末の厚木やその周辺地域を知る大変重要な資料の1つであると考えます。



「仮屋喚渡」（厚木六勝より）

5月の博物館の予定

国による緊急事態宣言発令に伴い、5月6日（水曜日）までを目途にあつぎ郷土博物館及び古民家岸邸を休館といたします。なお、休館に変更が生じた際は、ホームページでお知らせいたします。また、休館中もあつぎ郷土博物館においてレファレンスの対応はさせていただきますので、お電話等でお問い合わせください。（ただし、平日に限ります。）

※休館中の博物館の様子等をFacebookにて発信しております。ご覧ください。

あつぎの歴史・民俗・自然が好き！あつぎ郷土博物館

<https://www.facebook.com/atsugicitymuseum/>



（申込み・問合せ） **あつぎ郷土博物館**

〒243-0206 厚木市下川入 1 3 6 6 - 4 電話 046-225-2515

[Mail 8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp](mailto:8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp)

FAX 046-246-3005